

ボランティアさんに いろいろ聞いてみよう!



今回は、『音声訳』という活動をされているボランティア団体「フレンド」に、ボランティア活動にまつわる話をいろいろ聞いてみました。

「フレンド」は、広報くにとみ（町の広報紙）などを読み上げ、録音したものを視覚障がいのある方にお渡しする活動を続けています。

音声訳の他に、児童への『読み聞かせ』も行っています。

現在は13名で活動されていますが、今回は「フレンド」の代表者である川越早苗さんに、いろんな話を伺ってみたいと思います。



社協：「フレンド」は、いつ結成されたのですか？

川越さん：社協が主催した朗読教室勉強会を2年間受講した後、平成15年に受講者で結成しました。

社協：広報くにとみ（町の広報紙）の音声訳では、どんな作業をしているのですか？

川越さん：まず、人名や横文字の読み方などを確認します。次に、入念に下読みしてから、吹き込む作業（テープに録音）をしています。

社協：広報くにとみ（16ページ）の音声訳には、どれくらいの時間がかかりますか？

川越さん：広報くにとみは、録音すると70分位のものができあがりますが、録音作業だけでも5～6時間かかります。下読み等も含めると、全部で1日半くらいの作業になります。



社協：定期的に勉強会も行っているそうですね。どんな内容の勉強会ですか？

川越さん：月1回、講師をお招きして、腹式呼吸での声の出し方やアクセントの練習などをします。教材は、エッセーや短編小説など様々です。

社協：音声訳の大変なところって、どんなところですか？



川越さん：間違えずに読むこと。他には、文章の意味を理解し、「間」を大事にして読むことや、アクセントでしょうか。体調管理も大事ですね。鼻声だと聞き苦しいので、花粉症の方は、その時期に音声訳ができませんから、他のメンバーに代わってもらったりしています(笑)。

社協：アクセントって、難しいんですよね？

川越さん：（同音異義語の）「雨と飴」では、アクセントが違いますが、宮崎の人は苦労しています。でも、「広報くにとみ」などは、郷土のことばが許される部分もあります。

社協：音声訳だけでなく、読み聞かせもされていますよね？

川越さん：小学校や図書館で行っています。楽しい絵本や面白い絵本が人気です。でも、時間帯が放課後などのときは、ゆっくり落ち着く絵本を選んで読み聞かせをします。



この他にも色々な話を聞かせていただきましたが、「一緒に活動する仲間がいたから、お互いに声をかけ合って長く活動を続けられた。大げさな言い方だけど『恩返し』だと思って、人のためと言うよりは自分のためにボランティア活動をしている。また、一部の人じゃなくて、みんながボランティア活動に関れるようになるといい。」と話されていました。なお、「フレンド」の長年にわたる活動に対し、県から表彰が行われました。今後ますますの活躍が期待されています。

「他にどんなボランティア活動があるのかな？」など、ボランティア活動に興味をお持ちの方は、お気軽に国富町社会福祉協議会までご連絡ください。話を聞かれるだけでもかまいませんよ！（興味を持ってもらえるだけで、大歓迎です。）

